

3年生学年通信

NO.18 2022.3.8発行

「ゆきの選択」を学習しました。

「ゆきの選択」という部落差別に関する物語について学習しました。3年間最後の人権学習ということもあり、みんなの感想には、今まで学習したことと今回学習したことをつなげて考えてくれている人、様々な差別に関して身近なことと考えてくれている人がたくさんいました。

全員分ではありませんが、みんなの感想を紹介します。

この3年間を通して「同和問題（部落問題）」について色々なことを学んできました。それらを通して思ったことは「差別を無くしていく第一歩は、差別について色々な知識を身につけること」だということです。この同和問題（部落問題）も他の差別もそうですが、知識が無いと相手を気遣うこともできないし、それどころか知らない間に相手を傷つけてしまう事だってあるかもしれません。そして、知識を身につけた後に大事なことは、身につけた知識をそのままにしないことです。自分が持っている知識を、他の人の意見も交えながら自分なりの考えに変える。そうすれば、よりよい世界を作っていけると思います。

差別を受けたことや差別を受けている人を私は見たことがないので、自分とは遠いことのように感じていたけど、もしかしたら自分の近くに部落出身の人がいるかもしれないので、身近なこととして理解を深める必要があると思った。

何か悪いことをしたわけでもないのに、部落出身というだけで差別を受けるのは単純に意味が分からないし、自分と同じ人間として見ていないのかと恥ずかしく思う。

部落差別だけでなく、世界にはまだ様々な差別がある。人種差別はその最たる例だ。日本人も人種差別を受けることがある。差別は身近にあるという事を自覚して、皆が自分の行動を振り返り、今後どうすべきか考えなければいけないと思った。

今回「ゆきの選択」を読んで、垂矢が自分が部落出身だということをゆきと広美にカミングアウトした様に、何か悩み事があった時に相談できる、心を許した友達って必要だと思ったから、僕も何かあったとき真剣に向き合ってくれる友達を作りたいと思いました。部落差別は、まず昔の身分制度がまだ残っている意味も分からないし、差別する意味が分からない。部落に住んでいるというだけで何も悪いことをしていないのに、差別されてかわいそうだと思いました。

今もなお差別が続いているのは、親から子などに伝わる偏見のせいだと思います。そういった偏見をなくすためには、そういった偏見をみんなが持たなくなり、次の世代の子どもたちへ正しい教育をするのが必要だと思いました。

今までに同和問題では、江戸時代の身分であるえた・ひにんが住んでいた地域が部落差別されているという、歴史的背景を学びました。しかし、いくら同和問題のことについて詳しく学んだとしても、全く理解できませんでした。同和問題は意外と身近なものかもしれないが、その地域出身だから、住んでいるからという理由で差別する人の気持ちが分かりません。このように私が感じていることは、同和問題が無くなりつつあるのだろうと感じました。私が同和問題について感じているようなことが、すべての人々に広がることで、この世のすべての差別がなくなると思いました。「差別する人が理解できない」ということは、悪いことではなく、むしろ良いことだと考えました。

私は隠し事をしない人で、でも私がもしその状況だったら言うと思う。部落でも他の人とは何も変わらないし、同じ人間。部落差別をして、良いこと、差別をして何か得るのか？今時、結婚差別とか正直古いと思う。もし、自分の家族が部落出身だったとしても、それを理由でいろいろ断られても「その人はそんな人なんだ」と思い、次に進みたいです。「自分が気に食わないから差別するんだ」という思いもあると思うけど、1人1人をもっと知っていくのが私の中で、1番だと思いました。

同和問題について正直、自分には遠い存在だと思っていましたが、もしかしたら身近な人になるかもしれない。別に打ち明ける必用は無いと思うし、打ち明けたとしても差別するのは違うと思う。部落出身？そんなの関係ない！この世界に生まれてきた場所は違うくても、感情など、自分で自由に表現できるのは世界でたった1人しかいません。そして出身地が部落であっても部落ではなくても、みんながみんな「同和問題について考えなくていい」世界が訪れてほしいです。

自分の中にも広美とかと同じで、どこか身近な問題ではないと思っているところはわずかながらあるし、部落問題（同和問題）はこのような授業で初めて聞いたから、聞いたこと無いときに「部落出身なんだ」とカミングアウトされても、その人に「だから何の問題があるのだろうか。」と思う事しかできなかったらと思うと、その人に対して失礼だったと思う。でもカミングアウトする側はする人に強い信頼があってしてくれると思うので、そういう人になりたいと思うし、そういう人を作りたいと思った。